

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復している」

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
総括判断	回復している	回復している	→

（注）令和元年7月判断は、前回平成31年4月判断以降、令和元年7月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売額が前年を下回っているが、コンビニエンスストア販売額、乗用車新車登録・届出台数、ドラッグストア販売額などが前年を上回るなど、回復している。生産活動は、自動車海外向けを中心に足下の生産が弱含んでいるなど、回復のテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、有効求人倍率が引き続き高水準で推移するなど、改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
----	---------------	--------------	------

個人消費	回復している	回復している	→
生産活動	緩やかに回復している	回復のテンポが緩やかになっている	↘
雇用情勢	改善している	改善している	→

設備投資	平成30年度は増加見込み	令和元年度は増加見込み	→
企業収益	平成30年度は増益見込み	令和元年度は減益見込み	↘
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘
輸出	前年を上回っている	前年を下回っている	↘

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響等海外経済の不確実性などに留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復している」

百貨店・スーパー販売額は、百貨店では化粧品や高額品等が好調を維持しているものの、百貨店・スーパーともに衣料品が低調なことなどから、全体では前年を下回っている。コンビニエンスストア販売額は、惣菜や冷凍食品、店内調理品等が好調なことなどから、前年を上回っている。乗用車新車登録・届出台数は、小型車が前年を下回っているものの、普通車、軽自動車は前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、新規出店効果に加え、化粧品、医薬品、食料品等が好調を維持していることなどから、前年を上回っている。家電大型専門店販売額は、冷蔵庫・テレビ等の買替需要が引き続き堅調に推移していることなどから、前年を上回っている。ホームセンター販売額は、インテリア商品は低調であるものの、大型連休等の影響もあり、DIY用品、園芸用品、資材などが好調であることなどから、前年を上回っている。このように、個人消費は回復している。

(主なヒアリング結果)

- 化粧品を含めラグジュアリーブランドが引き続き好調である。天候の寒暖が激しく、婦人服等の春物衣料の動きが鈍く、前年を下回っている。(百貨店、中堅企業)
- おにぎり、冷凍食品、レジ周りのフライヤー商品などが好調であった。有名店とコラボした商品やリニューアルしたサンドウィッチが前年よりも売れている。また、酒類では、リキュール、ハイボールが好調であった。(コンビニエンスストア、大企業)
- 新規出店効果に加え、化粧品、医薬品、食料品などが好調を維持している。5月中旬からは気温が上昇したこともあり、殺虫剤などにも動きがみられた。(ドラッグストア、大企業)

■ 生産活動 「回復のテンポが緩やかになっている」

輸送機械の自動車は、海外向けを中心に足下の生産が弱含んでいる。鉄鋼は、高い操業を維持しているものの、海外メーカーとの競合から足下の生産が弱含んでいる。電子部品・デバイス、車載向け製品が総じて堅調なもの、スマートフォン向け製品の落ち込みが続いている。造船は、一定の受注残高や操業を維持しているものの、受注価格は低い状態が続いている。このように、生産活動は回復のテンポが緩やかになっている。

- 主力の海外向けは、北米向けに加え、他地域向けの生産も足下弱含んでいる。(輸送機械、中小企業)
- 主力の自動車向け鋼材等の生産については、高操業を維持しているものの、中国、韓国メーカーなどとの競合から、足下の生産が弱含んでいる。(鉄鋼、大企業)
- 車載向け製品は堅調に推移しているが、中国経済の減速を受けて、スマートフォン向け製品は需要の落ち込みが続いている。(情報通信機械器具、中堅企業)

■ 雇用情勢 「改善している」

有効求人倍率は、引き続き高水準で推移している。新規求人数は、足下、前年を下回っているものの、引き続き高水準で推移している。新規求職者数は前年を下回っている。このように、雇用情勢は改善している。

- 全体的に慢性的な人手不足である。募集は随時かけており、応募もたまにはあるが、ミスマッチ等が生じることもあり、上手く採用につながらない。(医療・福祉、中堅企業)
- 採用情報誌にも求人を出しているが慢性的にパート従業員が不足。正職員で補充できないものは費用をかけて派遣により対応している。(小売、大企業)
- 新規出店要員や、既存店舗の人員が不足しているため常に募集しており、少しずつ解消しているものの、まだ充足していない。(小売、大企業)
- 新規求職は、高齢者層で引き続き増加しているものの、若年層で減少しており、前年を下回っている。有効求人倍率は引き続き高水準で推移しており、当面現在の情勢が継続する見込み。(労働局)

■ **設備投資** 「令和元年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成31年4～6月期

- 製造業では、その他製造業等で減少見込みとなっているものの、非鉄金属、電気機械器具等で増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、小売等で減少見込みとなっているものの、運輸、郵便、金融、保険等で増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 製品増産にかかる工場への設備投資を段階的に実施している。受注は一部減少してきているものの、昨年より投資額は増加する見込み。(非鉄金属、大企業)
- 運輸事業における安全投資に加え、複合施設建設費用、駅ビル開発費用などを見込んでいるため、前年度より増額の見込み。(運輸、郵便 大企業)

■ **企業収益** 「令和元年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成31年4～6月期

- 製造業では、自動車・同附属品等で増益見込みとなっているものの、窯業・土石製品、その他の輸送用機械器具等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、小売等で増益見込みとなっているものの、運輸、郵便、不動産等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家及び給与住宅が増加しているものの、貸家及び分譲住宅が減少していることから、前年を下回っている。

■ **輸出** 「前年を下回っている」

- 輸出 (円ベース) は、前年を下回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を下回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (平成31年4～6月期) の景況判断BSIで見ると、平成31年4～6月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、令和元年7～9月期に、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 管内各県の総括判断

	前回 (平成31年4月判断)	今回 (令和元年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	回復している	回復している	➡	生産活動は回復のテンポが緩やかになっているものの、個人消費は回復しているほか、雇用情勢は改善している。
佐賀県	回復しつつある	回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しつつあるほか、生産活動は回復しつつあり、雇用情勢は改善している。
長崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっているものの、個人消費は持ち直しつつあるほか、雇用情勢は改善している。